

モーターショー雑感

去る2月14日～16日に札幌ドームで開催された「札幌モーターショー2014」を視察してきました。

モーターショーを見るのは生まれてこの方初めてです。今回の動機は、ショーの雰囲気をはじめ、最新のクルマのシートに座ったり、ハンドルを握ったり、説明員からメカニックや省エネの話聞いて勉強しようなどと考えたからです。

ところが、そんな悠長な考えは甘く、地下鉄東豊線の混み具合から、凄い人気があることがすぐにわかりました。開催した三日間の来場者数は、なんと11万5千人。人混みを掻き分けながら、ようやく会場を1周してきました。結局、クルマの中に座ることもなく、説明員の話をつっくり聞くこともなく、あまり勉強にならなかったわけで、少々悔いが残りました。

しかし、さすがに、国内外メーカーの高級車やエコカーがズラリ勢揃い、各社のプレゼンテーションも豪華でインパクトがあり、見ていて楽しい工夫が凝らされていました。

これだけの技術開発をするために、各メーカーがどれくらいの資金と人材を投入しているのか、電気自動車、燃料電池車の開発、安全サポートなどクルマの技術は果たしてどこまで進歩するのか、熾烈な国際競争において、日本はいつまで自動車業界のトップの座を維持できるのかなど、いろいろ考えさせられました。

一方、華やかなブースの傍ら、室蘭工業大学の学生達が独自に手作りのブースを設け、自分たちの活動をPRをしていました。聞いたところでは、「2013年エコランプロジェクト」という50ccの原動機付きエンジンを使用して、リッターあたりの走行距離(いわゆる、燃費)を競う全国大会に出場したそうです。成績は、一人乗りの自作車でリッター1,358km走行し、6位に入賞したというから見事です。学生の飽くなきチャレンジ精神、それをバックアップする大学側の取組みにも敬意を表したいと思います。

今年の目標は？と学生に聞くと、燃料噴射を電子制御に変えたり、タイヤ周りの空気抵抗を少なくすることにより、3,000kmを目指したいと真剣なまなざしで語っていました。

将来のモノづくり産業を担う創造性あふれる人材に期待を寄せるとともに、我が研究所、我がチームも頑張らなければならないとの思いを強くした一日となりました。

(国土交通省 北海道開発局 留萌開発建設部長 (前 寒地河川チーム 上席研究員 伊藤 丹))

* * * *

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。